

(8) ビ ワ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
がんしゅ病 (細菌)	①防風垣、防風網を設置する。 ②無病樹を植え込む。 ③罹病枝を除去する。 ④9月下旬に枝幹部病斑を削る。 ⑤果実に丁寧に袋掛けする。 【参考事項】 病原細菌は病斑部から水滴によって運ばれる。 袋かけ、収穫、芽かき、剪定などによる傷から感染し、芽、葉、果実、枝、幹などで発病する。その部位に特徴のある病斑を形成する。 ナシヒメシンクイが食入するとその傷口から発病し、病斑を拡大させる。 芽枯れ症状は茂木系統に、枝幹の発病は田中系統に多い。
灰斑病 (<i>Pestalotiopsis</i>)	①樹勢の強化に努める。 ②敷わらをする。 ③通風、採光を良くする。 ④伝染源は前年の罹病葉なので、罹病葉は集めて適切に処分する。 【参考事項】 病斑上に形成された分生子が雨水によって飛散し、葉や果実の表面で発芽して侵入する。
ごま色斑点病 (<i>Entomosporium</i>)	①被害葉を園外に持ち出し、適切に処分する。 ②排水、通風を良くする。 ③敷わらをする。 【参考事項】 樹上の病斑及び落葉上の病斑に形成された分生子が風雨によって飛散し発病する。 台木用実生、苗木及び幼木に発生が多い。
アブラムシ類	①農薬散布を控え、天敵であるテントウムシ類、ヒラタアブ、ウスバカゲロウ、アブラバチなどの増殖を促す。 【参考事項】 ナシミドリオオアブラムシは卵、幼虫、成虫で越冬し、硬化葉に寄生する。11～5月が寄生時期である。 ユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシは未硬化葉に4～10月に寄生する。
ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	①粗皮削りを行う。 【参考事項】 1～2齢幼虫で越冬し、年3回発生する。
ナシヒメシンクイ	①粗皮削りを行う。 ②冬期にバンド誘殺する。 ③果実の袋掛けを行う。 【参考事項】 老齢幼虫が、がんしゅ病発病部位及び樹皮内で越冬する。年5～6回発生する。 6月中旬～下旬、7月中旬～下旬、9月中旬～下旬に発生が多い。
ミカンハダニ	①カンキツ、ナシなどから移動する場合がありますので、周辺にこれらの果樹を植えない。 【参考事項】 休眠しないので、卵～成虫のすべてのステージで越冬し、年間十数回発生する。